

# 幕別相撲連盟

## 沿 革

幕別相撲連盟は十勝相撲連盟の理事長であられる森脇仁氏等の呼びかけにより氏等の目標である健全な青少年の育成、体力の増進、古来からの精神を継承する場として町内の相撲を愛好する有志達により昭和60年7月に発足した。

当連盟の結成にあたっては、インターハイ等に出場の経験のある小師国光氏が有志達の間を飛び回るようにして、選手を集め、また後援会作りを進められ苦勞の甲斐あって選手も集まり、また後援会も無事発足することができた。幕別相撲連盟の初代会長（現会長）には堂前豊氏、副会長には森若幹雄氏、小師国光両氏が選出された。

昭和60年には幕別神社境内にしかなく、これから相撲を普及させるためには、各地域に土俵を設置しなければならないということで十勝相撲連盟からの要請もあり幕別温泉ホテル前の神社前に特設相撲場を設置した。そして昭和60年10月6日、幕別町、幕別観光協会、十勝相撲連盟等の御好意により第一回全十勝相撲選手権大会を幕別町産業祭に賛加させていただくことができました。第一回の大会にあたり、幕別町、幕別町観光協会には多大な御支援をいただき、幕別相撲連盟、十勝相撲連盟、共々感謝にたえません。

また、本大会を開催するにあたり、帯広市を始めとして十勝管内の町村より数多くの選手を迎えて第一回大会の名誉を幕別相撲連盟に与えていただいたことに当連盟はとても感謝しているしだいです。



現会長 堂前 豊氏



## 現 況

### 活動状況

#### ① 昭和62年度の推進事業

イ、全道青年体育大会十勝地区予選（6月28日）

- ロ、全道市町村別相撲大会 (7月19日)
- ハ、国民体育大会十勝地区予選 (8月23日)
- ニ、国民体育大会全道予選 (9月13日)
- ホ、全十勝子供相撲大会 (9月27日)
- ヘ、全十勝相撲選手権大会 (10月4日)

当連盟では相撲の普及にあたるかたわら施設、設備の整備を充実させるために町や町教育委員会等に陳情をしていくつもりでいます。また当連盟の副会長でもあられる、小師国光氏宅横に当氏が相撲道場を設置され定期的にけいこをつけていらっしゃいます。

## ② 現 役 員

顧 問	林 照男	富谷 晴一
相 談 役	森脇 仁	
会 長	堂前 豊	
副 会 長	森若 幹雄	小師 国光
理 事 長	木川東洋治	
理 事	佐藤富士雄	伊藤 光一
	村上昭二郎	大上 光一
	田村 征治	村田 義雄
	森若 勝男	雪田 俊幸
	横山 誠	館 昌利
監 査	日野 安弘	笹原 政清
事務局長	堂前 護	

昭和60年発会により昭和62年現在初代役員と同じ。

## ③ 経過と活躍

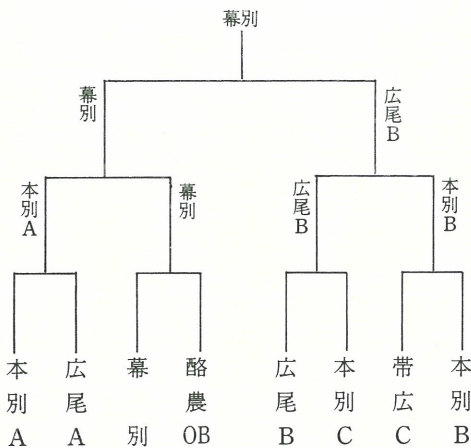
十勝相撲連盟による第一回全十勝相撲選手権大会が幕別の産業祭で行われることになり、この大会の大会長でもある森脇仁氏の指導のもとに選手の代表的な存在である、小師国光氏が幕別温泉前特設相撲場の土俵作りを手始めに行うことになった。諸先輩方の御指導のもとに土俵作りに入ったわけであるが天候にも恵まれず土俵の土が固まらずに大変苦勞されたようだ。また、選手の練習も小師氏が行わなければならなかったのでこの大会が終るまでの氏の御苦勞は並大定のことではなかったと思われる。このような苦勞の甲斐あって第一回大会を行うことができたのである。幕別相撲連盟の戦績は後にも記述するが団体、個人ともに優勝の特筆すべき成績であった。この様に第一回大会が無事終了その後も第二回大会、第三回大会も幕別も行われることになったのである。

一方、全十勝子供相撲大会が昭和61年9月に広尾町で行われた。子供相撲の大会も幕別町では町の春祭り、秋祭りに行われる余興のようなものしか行われていなかったので選手を集めるにもなかなか集まらず、幕別小学校の先生方に大変迷惑をかけました。先生方の協力で

なんとか選手も集まり第一回の全十勝子供大会に出場することができました。1～2年生の部の個人戦では始めてまもないというのに優勝者がでてこれからはげみになるものと思います。

④ 幕別相撲連盟の戦績

昭和60年第一回全十勝相撲選手権大会



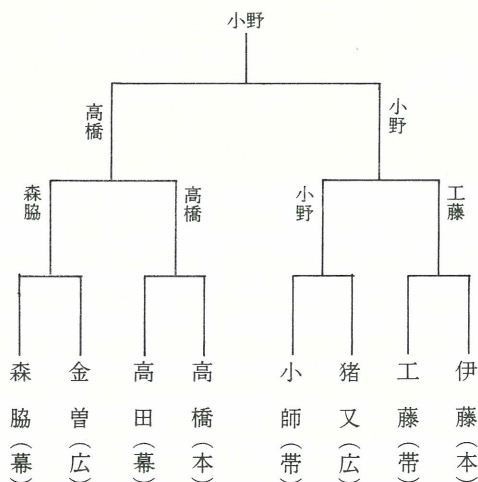
〈団体戦〉

優勝 幕別チーム

先鋒 森脇 吉廣  
 中堅 小師 国光  
 大将 武藤 利浩



第一回大会個人戦決勝トーナメント

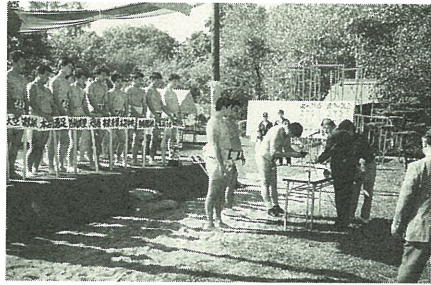


優勝 小師 国光  
 3位 森脇 吉廣



## 【昭和61年度】

- 全道青年体育大会（相撲競技の部）  
重量級 優勝 小師 国光
- 全十勝子供相撲大会  
1～2年の部 優勝 佐々木直也（幕小）
- 第二回全十勝相撲選手権大会



団体	3位
個人	3位 小師 国光

## 目 標

日本の国技である相撲は古代より日本民族の生活に即して発達した伝統文化であり、大気に肌をさらし、素足で土を踏みしめ、激しくぶつかり合う男性的で勇壮なスポーツである。

本道は過去幾多の名力士を輩出した相撲大国であり、特に郷土十勝においても広尾町出身の横綱北勝海は二度の優勝をし、また芽室町出身の大関大乃国は全勝優勝をし、横綱近しの呼び声も高まっている。十勝に住む相撲愛好家は非常に楽しみである。

毎年幕別で行われている全十勝相撲選手権大会を契機として、幕別町民はもとより十勝管内の人々の相撲への関心が一層高まることを期待して止まない。

また、近年青少年の非行増加が大きな社会問題となっているが、日頃の厳しい鍛練により強健な身体と不屈の精神を養う相撲道は次代を担う青少年の人間形成に極めて有効なスポーツであり、当連盟においても、この普及、奨励に努める考えでいます。